



Close Up YNU 2015

大学との「絆」をより深める、コミュニティマガジン

President's Message

学長メッセージ



グローバル新時代に対応する人材育成を 横浜・神奈川という地域に根差した 文理融合キャンパスのYNUで実践する

2 000年代に入りBRICSや東南アジア地域などの新興国の成長がグローバル化のカギを握る時代を迎えています。近い将来には中南米やアフリカ諸国も成長の波に乗ることでしょう。こうした時代を私たちは「グローバル新時代」と定義し、今後YNUはアジアを中心とする新興国に着目して、世界と日本の持続可能な発展を追求します。

グローバル新時代に対応するためには、新興国の文化や宗教、制度などに関する深い理解が必要です。そこで注目されるのが、人文・社会科学と自然科学の連携を強化した「文理融合」の研究と教育です。人文・社会系学部と理工系学部があるYNUは、グローバル

新時代にふさわしい研究と教育を実践する可能性に満ちたキャンパスです。

また、YNUが位置する横浜・神奈川は、イノベーションの大きな可能性をもつとともに、少子高齢化や環境問題など、多くの課題を抱えたエリアでもありますが、これらの課題には、グローバルに共通するものが多くあります。私たちは、地域の課題に目を配り、それらに取り組むことが実はグローバルな視点を養うと考えています。「ローカルとグローバルを共にとらえる視点。」グローバル新時代を生き抜く力を備えた人材を、文理融合を実践し、新興国からの多くの留学生とともに学ぶ、YNUキャンパスで育成していきます。

横浜国立大学長 **長谷部 勇一**

新体制のご紹介

2015年4月1日、長谷部学長の就任をはじめ、右記のとおり5名の理事・副学長が就任し、2015年度をスタートしました。

学長	長谷部 勇一
理事(総務担当)・副学長	大門 正克
理事(研究・評価担当)・副学長	森下 信
理事(国際・広報担当)・副学長	中村 文彦
理事(財務・施設担当)・事務局長	清水 明
副学長(教育担当)	小野 康男

安心・安全で持続可能な社会を実現するための研究拠点

先端科学高等研究院を設置

横 浜国立大学は2014年10月1日、科学技術の進歩と社会の要請に応じた「実践的学術の国際拠点」としての機能を一層発展させるために、「先端科学高等研究院」を設置しました。

本学の強みであり、他大学では類を見ないリスク共生学の研究を中心に、安心・安全で持続可能な社会を世界的に実現するための研究拠点を形成することを重点目標に掲げています。この

設置により、世界をリードする本学の先進的な研究分野において、海外の大学や研究機関に加えて、社会と連携しながら著名な研究者を国内外から結集させ、さらに学術分野の枠を超えた学際的領域における実践研究を推進して、世界的研究拠点を形成します。そして、その成果を社会還元して、持続可能な国際社会の発展に貢献します。

先端科学高等研究院キックオフ特別講演会



YNU 国際シンポジウム2015を開催

「横浜を拠点とした中南米との協働—
ともに夢を紡ぐ—Esperanza ~希望~」

国 際協力機構横浜国際センターで、2015年1月28日、「横浜を拠点とした中南米との協働—ともに夢を紡ぐ—Esperanza ~希望~」と題するYNU国際シンポジウムを開催しました。

第1部では、豊歳直之駐日パラグアイ特命全権大使はじめ5名の講演者が、自身の経験を交えながら、自国と日本との関係、

YNUとの関係についてお話くださいました。また第2部では、トシイチ・タチバナサンパウロ大学教授ら3名の大学教員が、YNUと中南米の大学の今後の交流について具体的な計画等を提言し、また「教育・環境・若者の労働・リーダーシップ・国際交流」のテーマに沿って、参加者も交えてグループ討論を行いました。最後には「南米

を知る日本人、日本を知る南米人を育成するには」と題して、パネルディスカッションを行いました。

長時間に渡るシンポジウムでしたが、会場の参加者を交えた活発な議論もあり、本学と中南米の大学との交流に対する関心の高さがうかがえました。



大学教育再生加速プログラム推進フォーラムを開催

2 014年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム」に本学が採択されたことから、2015年2月21日・22日、横浜ベイホテル東急にて「大学教育再生加速プログラム推進フォーラム 学生のための、学生を成長させる学修成果の可視化とは—学生の主体的な学びの確立をめざして—」を開催しました。

橋本勝氏(富山大学大学教育支援センター教授)からは、学生の主体的な学びを促す仕掛けとしてご自身が取り組まれた学生参画型のFD活動や大人数討論型授業の実践について、井上史子氏(帝京大学高等教育開発センター教授)からは、

近年大学教育において注目されているルーブリックを用いた評価についてお話いただきました。また各地の大学から参加した学生の方々に、主体的な学びをどう考えるか、学生の学修意欲を高める成績評価とはどのようなものかについてプレゼンテーションしていただきました。

2日目はテーマごとに分科会を行い、学生・教職員で活発な議論が行われ、最後には各分科会での内容を参加者全員で共有しました。

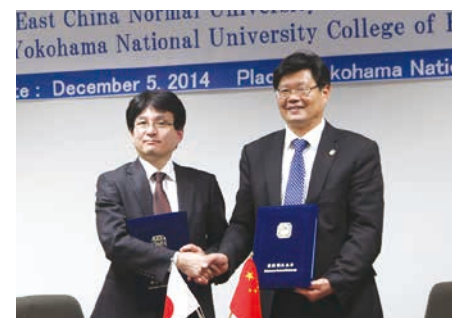
本フォーラムの成果は、今後の本学における大学教育再生加速プログラムの推進に活用してまいります。



中国 華東師範大学商学院と経済学部が国際連携

中 国華東師範大学商学院と本学経済学部の共同学位(Wディグリー)取得プログラムが、2015年度より開始します。本プログラムは国際社会で通用しリーダーとして活躍できる人材育成を経済学分野で具体的に実施するもので、修了要件を

満たせば両大学の学位を取得することができます。連携する華東師範大学は、国際的
大学連携で実績を有する中国有数の一流総合大学であり、共同学位を軸とした密な連携は今後の大学教育を推進する上で大きな意義があります。



固い握手を交わす石山幸彦経済学部長と
馮学鋼華東師範大学商学院長

横浜弁護士会と包括連携協定を締結



横 浜弁護士会との法学研究、法曹人材育成等に関する包括連携協定が2014年9月3日に締結されました。本学は2004年の法科大学院創設以来、弁護士の派遣、教材開発の提供、エクスターンシップといった横浜弁護士会からの全面

的協力の下に法曹教育を充実させ、さらには各種研究会の開催を通じて密接な協力関係を構築してきました。連携をより一層強化することにより、地域に根差した実践的教育研究・地域社会への貢献を図っていきます。

第4回YNU日本語スピーチ大会

第4回YNU日本語スピーチ大会(読売新聞東京本社横浜支局後援)が12月16日に開催されました。当日は総勢111名の来場者を前に、本学で学ぶ留学生8名が「わたし

の挑戦」というテーマでそれぞれの思いを日本語で表現し、韓国からの留学生で経済学部2年のガク・ジェハンさんが最優秀賞を受賞しました。



神奈川産学チャレンジプログラム

12月18日、企業・団体が提示する日常の経営課題に関する実践的な研究テーマに挑戦する第11回神奈川産学チャレンジプログラムに、県内19大学225チーム、計720

名の学生が参加しました。本学からは8チームが参加し、5チームが入賞しました。

最優秀賞:川島悠士・福田真由子・笹原那月(経営学部真鍋ゼミ)
「京急グループ施設、沿線の観光資源を活用した訪日外国人向けツアーの提案」

第11回 神奈川産学チャレンジプログラム 懇親

主催:一般社団法人神奈川経済同友会



学生表彰式の実施

3月23日、課外活動で優秀な成績を収めた学生・団体へ、鈴木学長より表彰状が贈られました。



表彰者

皿井泰光さん (理工学部3年)	第28回・29回国公立24大学対抗陸上競技大会男子10,000mにおいて連続優勝
宮坂楓さん (教育人間科学部4年)	天皇賜杯第83回日本学生陸上競技大会女子三段跳優勝
福里秋帆さん (教育人間科学部2年)	第62回・63回関東甲信越大学体育大会陸上競技女子800mにおいて連続優勝
清水楽さん (教育学研究科2年)	第28回・29回国公立24大学対抗陸上競技大会男子三段跳において連続優勝
竹田悟さん (教育人間科学部2年)	第34回全日本国公立大学スキー選手権大会男子ジャイアントスラローム優勝、第41回全国学生岩岳スキー大会男子スラローム7位、同男子新人戦ジャイアントスラローム4位
将棋サークル若葉会	平成25年度関東大学将棋連盟春季(C2級)・秋季(C1級)大学対抗団体戦優勝、平成26年度春季(B2級)・秋季(B1級)大学対抗団体戦準優勝

快挙! 卒業生が サントリー学芸賞を受賞

長門洋平さん(本学教育人間科学部マルチメディア文化課程卒業および教育学研究科芸術系教育専攻修了)が、第36回サントリー学芸賞を受賞しました。受賞作は、『映像音響論—溝口健二映画を聴く』(みすず書房、2013)です。

長門さんは、故大里俊晴教育人間科学部教授のゼミで指導を受け、総合研究大学院大学文化科学研究科博士後期課程に進学。国際日本文化研究センターの細川周平教授の指導で本書の元になる博士論文を執筆されました。サントリー学芸賞は、広く社会と文化を考える、独創的で優れた研究、評論活動をされた方を顕彰しており、若干33歳での処女作の受賞は大変めずらしく今後の活躍が期待されます。2014年12月9日に都内で贈呈式が挙行され、正賞の楯と副賞200万円が贈呈されました。

将来の学術研究のリーダーとして、後のノーベル賞候補者となるようなフレッシュな研究者を顕彰する「第11回日本学術振興会賞」を受賞した多々見純一教授と、日本アニメーション学会において記念すべき第一回目の表彰となった「日本アニメーション学会賞2014」を受賞した須川亜紀子准教授の研究をご紹介します。

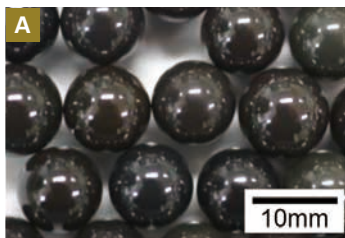
先進セラミックスの破壊と創造

大学院環境情報研究院教授 多々見純一

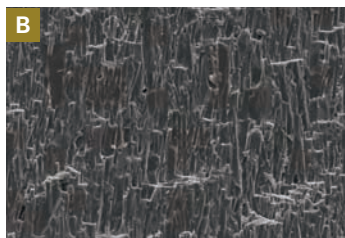
セラミックスは粉を固めて焼いて作られる所謂焼き物で、身近な食器から自動車やスマートフォンなどの先端機器まで、その機能を活かして幅広く利用されている材料です。このようなセラミックスの最大の欠点は脆くて壊れやすいことですが、これを克服するためのセラミックスの破壊に関する理論的・実験的研究と、理想を実現するための粉体プロセス科学を両輪として研究を進めています。

我々の研究室では、窒化ケイ素や窒化アルミニウムといった非酸化物セラミックスを主に取り扱っています。これらの材料は、本学名誉教授の米屋勝利先生が精力的に研究されていたものです。これまでに軸受(A)やエンジン部品等の構造材料として研究開発してきましたが、最近、高い機械的信頼性ととも、カーボンナノチューブの均一分散による導電性や結晶配向制御(B)による高い熱伝導率などの機能が付

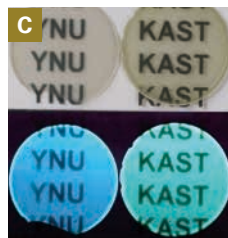
与された材料の研究も進めています。特に、粉体プロセスの精緻化で高出力白色LEDへの応用が期待される透明で蛍光性を示すサイアロンセラミックスバルク体(C)の開発にも成功しました。今後も、これまでの「先進セラミックスの破壊と創造」の研究を活かしつつ、新たな分野と融合しながら未来を拓く革新的な材料の開発を進めていきたいと考えています。



窒化ケイ素セラミックス軸受球



高熱伝導性c軸配向窒化ケイ素セラミックス



透明蛍光サイアロンセラミックス



TATAMI Junichi
大学院環境情報研究院
教授
専門分野: 先進セラミックス、
粉体プロセス科学

ジェンダーを通じて2.5次元文化を読み解く

大学院都市イノベーション研究院准教授 須川亜紀子

私の研究は、主にアニメ、マンガ、ゲーム、ライトノベルなどの現代ポピュラー文化に関するものです。ジェンダーの視点から、女の子向けテレビアニメの代表「魔法少女」アニメにおける少女のイメージの分析と、それを観て育った女性たちへのインタビューを行って、その言説を分析したのが『少女と魔法—ガールヒーローはいかに受容されたのか』(NTT出版、2013年)です。

子どもの頃に見慣れたテレビアニメにおけるイメージ(表象)は、無意識に自己をめぐるイデオロギー形成に影響を与えている場合があります。特に女兒視聴者を対象としたアニメ番組を時系列順に追って調査してみると、「少女はどうあるべきか」が常に問

題化されていることが見えてきます。それは男児視聴者向け(ロボットやスポーツものなど)でも同じことが言えます。

最近ではテキストと視聴者研究を発展させ、アニメなどのコンテンツ、いわゆる「2.5次元文化」に関するテキストとファンの研究を、ジェンダーとパフォーマンス学の観点から研究しています。この分野は多くの可能性があるため、スタジオの学生たちも楽しんで調査しています。

須川先生の研究室にて



SUGAWA Akiko
大学院都市イノベーション研究院
准教授
専門分野: ポピュラー文化論

YNU 校友会は、2015年4月、 新入生が加入し本格的に始動しました!

横浜国立大学校友会(YNU校友会)は、本学がグローバル時代に対応した「実践的学術の国際拠点」として輝きを増すために2014年10月に設立され、卒業生、現役の学生、現職の教員・職員を会員としています。各学部や大学院の専門性、OB・OGと現役という年齢差、留学生と日本人という国籍などの壁を越えて、横断的な絆を強めることで、総合力を発揮させ、社会への情報発信力を高めることを目的としています。

杉田亮毅校友会会長は、2015年4月3日入学式後、新入生への祝辞とともに、校友会は大学の存在を高めるべく大学をバックアップしていくとの抱負を述べられました。

横浜国立大学 校友会
YOKOHAMA National University Alumni Association
koyukai.ynu.ac.jp



YNU 校友会の事業展開

▶まなび座、校友会設立記念講演会の開催 (全学部1年生対象)

まなび座では、高校生までの受動的な学びの場から、正解がない社会を前提に自ら課題を見つけ解を見出す能動的な学びの場への転換点にあたり、自律的に将来を構想する土台を創ります。また、将来の進路や人生を考えるキャリア教育として、全7回の講演会を実施します。

▶清陵祭、常盤祭でのイベント開催

清陵祭では「校友会テント」を出展し、楽しいイベントで新入生を歓迎します。

また、常盤祭初日にホームカミングデーを同日開催します。これを機会に特に若手の卒業生と学生の交流がより活発になることを期待しています。

そのほか、異業種交流会、グループコンテスト、地域・海外校友会、就活相談などを順次展開していきます。校友会はみなさんのものです。オールYNUで育てていきましょう!

YNUミュージアム NEWS

大学の歴史・伝統、研究成果、学生の活動を社会にわかりやすく伝えることを目的としたYNUミュージアム。2014年度の活動を振り返ります。

「國領経郎展」開催

2014年10月から12月の期間中、本学教育学部(当時)教授で洋画家の國領経郎先生の作品の一部が本学に寄贈されたことを記念して、「横浜国立大学寄贈記念 國領経郎展」を開催しました。



ギャラリートーク「絵画の見方とミュージアム活用術」開催

公開最終日には小野康男教育人間科学部教授によるギャラリートーク「絵画の見方とミュージアム活用術」が開催されました。



YNUミュージアム来館者数が 3,000人を突破

YNUミュージアムでは、国領展開催中に開館以来ちょうど3,000人目となるお客様をお迎えしました。記念すべき御来館者は突然のことに驚いた様子でしたが、スタッフたちの拍手の中、ミュージアムディレクターから贈呈された記念品を手に記念撮影を終えると、笑顔でしばしの歓談となりました。



YNU オリジナルグッズ好評発売中!

2014年度末、学生広報サポーターがデザインを手掛けた「YNUサーモボトル」、YNUや横浜にまつわるモチーフが散りばめられた「YNUミッキーマウスクリアファイル」が発売されました。その他大学生協にて、学生デザイナートートバッグやYNUスウェットパーカーなど、多数のオリジナルグッズがお求めいただけます。大学へお越しの際はぜひお立ち寄りください。



e



a. YNUサーモボトル

b. YNUミッキーマウスクリアファイル



c

d

c. トートバッグ(M):ナチュラル (印刷:水色)

d. トートバッグ(M):ネイビー (印刷:紫)

e. YNU スウェットパーカー

Pick Up YNU

大学は「共生社会」をキーワードに
先の日本に貢献する教育を

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、横浜国立大学は組織委員会と連携協定を結びました。横浜国立大学が2020年に向けて果たすべき役割について、本学卒業生の平田竹男内閣官房2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室長と長谷部学長の対談を本学ウェブサイトに掲載しております。ぜひご覧ください。

☞ www.ynu.ac.jp/special/glocalreport/vol13/

Let's go
YNU!第10回横浜国立大学
ホームカミングデー (HCD) のご案内

第10回ホームカミングデーの開催日が決定しましたのでご案内いたします。ホームカミングデーは、卒業・修了生、そのご家族、在学生、その保護者、教職員(退職者を含む)、地域の方々などの本学関係者がキャンパスに集い、旧交を温めるとともに、新たに親睦を深めることを目的としています。

今年度は新たな試みとして本学常盤祭と同日に開催し、メイン講演会、交流会を始め各種のイベントを実施する予定です。

ホームカミングデーは、本学関係者のみならず一般の方々にも開かれていますので、お誘い合わせの上お越しください。お待ちしております。

交流会で
みはるかす斉唱



第9回HCDメイン講演
「リングが教室。」

第10回横浜国立大学ホームカミングデー詳細

詳しくはこちら ホームカミングデーウェブサイト ☞ homecoming.ynu.ac.jp

開催日

2015年
10月31日
(土)

卒業生・修了生の皆様へ データ登録のお願い

本学では卒業生との連携を深めることを目的として、卒業生・修了生の方々に連絡先、就職(進学)先等のウェブによるデータ登録をお願いしています。登録データの使用内容は以下の通りとなります。

- ・ 大学最新情報案内のメールマガジンの配信(月1回程度) ※希望者のみ
- ・ 本学ウェブサイトや広報誌等の卒業生インタビューのお願い
- ・ 登録情報を同窓会へ提供 ※許諾者のみ
- ・ YNU ネットアドレス(生涯メール)の登録/確認

左記のこと以外の利用および提供は一切いたしません。
また、関係法令及び本学規則等により個人情報として適正に管理し、使用いたします。

本趣旨と使用内容をご理解の上、ご賛同いただける場合は、ご登録をお願いします。

登録
方法

パソコン・携帯電話より下記ページにアクセスしてください。

詳しくはこちら 横浜国大ウェブサイト → 「卒業生の方」 → 「卒業生・修了生データ登録」

YNUネットアドレスサービスのご案内

詳しくはこちら ☞ www.ynu.ac.jp/about/project/metaddress/

YNU ネットアドレスサービス(生涯メールサービス)は、本学が、卒業生・修了生並びに学生及び教職員を対象として、在学・在職時から生涯に亘って利用できるメールアドレスです。

本サービスは、Microsoft社が教育機関向けに無料で提供しているメールサービス「Office365 for Education」を利用し、本学が公的に保有するドメインである「@ynu.jp」を付したメールの送受信を行うものです。メールサーバ本体の運用管理はMicrosoft社が行いますが、利用者管理は本学側が行うことになります。送受信は、主にウェブメールで行います。

YNU ネットアドレスサービスのご利用は、左記の「卒業生・修了生データ登録システム」よりお申し込みください。